

無症状患者に対する COVID-19 スクリーニング検査の考え方

2020 年 10 月

鹿児島県医師会 COVID-19 相談窓口

【検査対象者】

流行状況によらずスクリーニングが望まれる患者

- 14 日以内に確定例と接触があった患者（入院や検査の延期も考慮する）

流行状況によらずスクリーニングを考慮する患者（各施設で担当部門と協議し対策を検討する）

- 緊急入院で病歴・接触歴等が確認できない患者
- エアロゾル発生リスクの高い鼻腔・副鼻腔・咽頭・気管切開・下気道領域などの手術患者・気管支鏡検査の実施患者
- 臓器移植ドナー・レシピエント

流行状況によりスクリーニングを考慮する患者

- 経路別不明者が多い地域に居住している、または同地域に 14 日以内に訪問にした患者（特に全身麻酔・内視鏡検査・分娩例・抗癌化学療法実施例は積極的に考慮する）

* 流行状況の基準：人口 10 万人当たりの週当たり新規感染症患者数 2.5 人以上、感染経路不明者の割合が 50%以上等

* 地域は県単位を基本とし、流行状況によっては保健所単位などでも考慮する

【検査方法】

- スクリーニングは PCR 等の核酸増幅検査を優先とし、迅速な判断が必要な場合には抗原定量検査を考慮する。
- 無症状者に対しては原則抗原定性検査を用いない。
- 抗体検査は用いない。
- 入院・手術 3 日以内に実施する。

【注意事項】

- 陽性になった場合の対応を円滑にするため、外来または個室入院での検査が望まれる。
- 検査では非特異反応・偽陽性と判定される例がある。特に抗原検査のみの陽性例は PCR 検査を実施し、総合的に判断することも検討する。